

第6学年1組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時
授業者

1 主題名 努力の尊さ

2 ねらい 主人公が夢に向かって進む過程で対面する困難を乗り越えていく姿に触れ、主人公の抱いた思いについて考え、話し合うことを通して、高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけないで努力しようとする態度を養う。

教材名 夢 （出典：「新しい道徳 6」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」に関するものである。これは中学校の「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」につながっていく。今回の内容項目は年間2回行う計画になっている。

人は自分を高めるために、理想を追い求め、日々努力し、その積み重ねが人を成長させていく。しかし、困難にぶつかり、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。その現実の中でも、より高い目標を立て、日々努力を重ねていくことが自分を成長させること、夢に向かうまでの過程が大切であることを考え、困難や葛藤を乗り越え、勇気と希望をもって前向きに努力しようという態度を養いたい。

6年生の段階は、それぞれに高い理想を追い求める時期といわれる。先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、その生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする。本時の成功体験ではない展開に、多様な意見を出し合うことで自分の「夢」について深く考え、その活動が、自己マスターに繋がっていくと考える。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

同じ内容項目である「心をつなぐ音色」の教材では希望や夢に向かって、あきらめずに努力しようとする主人公に共感し、自分の夢や目標について考えをノートに書いた。「何度もあきらめかけたけれど最後まで希望を持ったらできたことがあるから、これからも希望を持って何事もやっていきたい。」「何があってもあきらめない自分になりたい。人を笑顔にし、明るく親切にしたい。」と今後の自分の在り方について書いている児童もいた。また、最上級生になった4月から、事あるごとに自分の目標を掲げて様々な事に取り組んできた。運動会では、「最後まで全力を尽くそう」と目標もち、挫けそうになっても友達同士声をかけ合い、作戦を立てて、練習を積み重ねてきた。また、運動会の練習と平行に長縄の練習も行い、市内体育祭では、一喜一憂する姿が見られた。しかし、日々の地道な積み重ねが、自分の将来の夢や目標への実現につながっていることを意識している児童は多くはない。中学校への進学を目前にした児童に「夢」に向かう過程の大切さを知り、より高い目標に向かって、くじけないで努力する態度を養いたい。ただ、「頑張れ」「努力しよう」ではなく目標に向かってくじけず努力することの尊さについて考えを深めるようにすることが大切であると考え。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、小さい頃からプロ野球選手になることを夢見て、努力を重ねてきた主人公の夢の話である。主人公の「ぼく」の夢はかなわずに終わるが、「ぼく」の心は実にすがすがしく、さわやかであった。「夢はぼくを育て、ぼくの人生を切り開き、それは新たな夢につながっていく。」この言葉は、本教材において大きな意味をもつ。「ぼく」の気持ちを考えることで夢をもち、困難に負けずに努力することが人生そのものに意義を深め、人間的に成長することに気付かせることができる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を話し合う。

①高校時代、腰痛で練習ができなくなり、球を追いかける仲間の姿を見てたたずむ場面

ここでは、野球の強豪校に進学し、希望とやる気に満ちていた「ぼく」が、突然の腰痛で練習ができなくなった時、野球以外の仕事をしながら活躍する仲間を眺めたたずんでいるその気持ちについて、過去の努力を振り返りながら、人間の弱い部分に焦点を当てた素直な考えを引き出したい。

②高校時代、腰痛で練習ができなくなり、だれもしないような仕事に本気で取り組もうとする場面

ここでは、先の見えない大きな困難にくじけずに努力するのは難しいことではあるが、「ぼく」が、野球以外の仕事にも関わらず、あきらめずに「本気で」やろうと考えたのはどうしてか、多様な考えを引き出していきたい。

③プロ野球選手の夢が叶わなかった「ぼく」の心が、実にすがすがしいものであった場面

ここでは、夢が叶わなくとも、高い目標に向かって努力することで、自分の中に多様なものが培われ、それがさらなる希望や勇気とつながっていくことをおさえない。夢が叶わなかった「ぼく」が、何故すがすがしい気持ちになったのか、自分の体験を交えた話し合い活動を効果的に行えるよう工夫し、ねらいに迫る。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 教材への関心を高める。 (1)「夢」に関する学級の事前アンケートを見て、教材への関心を高める。 ①あなたに夢はありますか。 はい 68% いいえ 32% ②夢があったら努力できると 思いますか。	・半分以上が夢を抱いているんだな。 ・そういう生き方もいいなと思った。 ・自分の目標としてがんばれる気がする。 ・なりたいと思うからがんばれそう。	・多くの児童がなりたい自分像を抱いていることを認識し、自分と「夢」について改めて考える必要感を抱かせる。 ・夢が努力する上での動機となり得ることを考えさせる。
展開	2 教材について話し合う。 (1)事前に読んでいる教材の内容をふり返り、率直な感想を伝え合う。	・夢が叶わなかったのに前を向いていてすごいと思った。 ・これだけ努力できるのはすごい。 ・努力がかなわないのは苦しい。	・読んだ内容について児童の言葉でふり返らせる。 ・「ぼく」の人生について触れた今の自分の素直な感想を出させたい。

(2) ぼくの小学校～中学校時代の困難と達成の経験や状況を把握する。

(3) 高校時代、突然の腰の痛みで練習ができなくなり、目立たない仕事をしながら球を追いかけ練習する仲間の姿を見てたらずむぼくは、どんな気持ちで（ぼくは、いったいなにをしているんだ…。）と思ったのでしょうか。

(4) なぜ、選手たちの世話、後輩の指導、寮生活の監督などの『だれもしない仕事』を「本気でやってやる！」と心に決めて毎日続けたのだと思いますか。考えをノートに書いてみましょう。隣の人と話し合ってみましょう。

(5) 徐々に腰が回復し、大学で百人を超える野球部のキャプテンとなったぼくの達成の経験を把握する。

ぼくはいったい何をしているんだ…。

- こんなことしたくない。
- 他人のお世話なんてしている場合じゃない。
- もう疲れてしまった。
- もう腰は治らないかもしれない。
- がんばってきた意味がない。
- せっかく強豪校に入学できたのに何で。

本気でやってやる！

- きっと腰は治るはず。
- 今までの努力を無駄にしたくない。
- これまで乗り越えられてきた。今回も乗り越えられるはず。
- 自分の夢をあきらめたくない。
- 周りの人たちからの期待を裏切りたくない。
- みんなの世話だって野球だ。チームプレイなんだ。

- 小学校時代には、楽しみであった友達との遊びの誘いを断り練習に励み、中学で名門野球チームに加入し喜びでいっぱいを経験を押さえる。
- 中学校時代には、心身の限界を感じる毎日を励まし合い乗り越えてきた仲間すらも次々と辞めていく状況ががんばり抜き、甲子園出場を目指す強豪校に進学して、周囲の期待を受けてやる気と希望に満たされた経験を押さえる。
- 小中学校での努力とその達成の経験の関係を押さえる。

• 人間理解として、人間の弱い部分に焦点を当て、その後のそれでもあきらめなかった「ぼく」の気持ちを自分事として考えさせたい。

- 人間理解として、「だれもしない」ことは多くの人にはやりたくないことであることを認識した上で、続けた「ぼく」の心情を考えさせたい
- 価値理解としての、それでも続けることの大切さについて考えさせたい。

- 行く先のわからない中での苦勞を乗り越えた先の達成について押さえる。
- 『だれもしない仕事』を本気でやったからこそ努力する他者への気づきや指導への自信が生じたことに触れる。

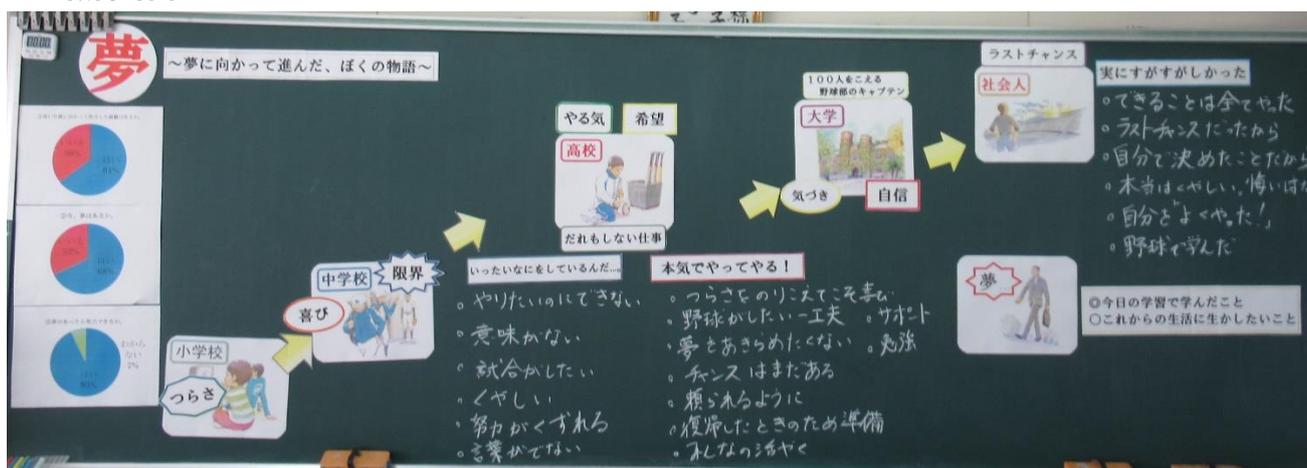
	<p>(6)「ラストチャンス」と自分で決めた最後の入団テストで名前の呼ばれなかったぼく。その心はどうして「実にすがすがしかった」のだと思いますか。この時のぼくの気持ちを考えましょう。</p> <p>隣の人と考えを話し合ってみましょう。</p>	<p><u>ぼくの心は、実にすがすがしかった。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の中でやれることはやり切ったという気持ち。 ・悔いは残っていないという気持ち。 ・プロ野球選手という夢に向かって努力する中で成長できたから。 ・苦労を重ねる中で強くなれたから。 ・次の夢を見つけようと思えたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそうした気持ちを抱いたのか、理由まで考えさせたい。 ・夢に破れても夢に向かって努力する中で得られたものが多くあったことを考えさせたい。 <p>☆「ぼく」のこれまでの経験とその心情に自分を重ね合わせ、自分の考えをもっている。(発表・つぶやき・ノート)</p>
	<p>3 自己を見つめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習からどんなことを学びましたか。生活にどう生かしたいですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢に向かっていくにはいろいろな困難が待っているかもしれないということを知ったけれど、負けずに自分を信じてがんばりたい。 ・夢は、日々の積み重ねで少しずつ近づいていくのだと思う。今の生活にも夢や目標を持って努力したい。 ・苦労を重ねる中で、自信や強さを身につけることができるから、夢に向かって努力することは大切だと思う。 ・本気でやる中で、新しいことに気づけるのだと知った。夢に向かってチャレンジして、いろいろなことを学びたい。 ・苦しい思いをしながらも最後までやり抜いたぼく、夢は叶わなくてもすがすがしい気持ちでいられるぼくはすごい。自分もそうなりたいと思った。 ・たとえ夢がかなわなくても、本気でやり抜けば、次に進めるのだと思う。がんばった自信を胸に、新しい夢を持てるんじゃないかと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容によって理由まで書けるように助言を行う。 <p>☆自分との関わりの中で、高い目標に向かい、勇気や希望をもって努力することの大切さについて考えている。(ノート・発表)</p>
終末	<p>4 教師の説話を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合うことが苦手な自分と小学校教諭という夢について 		

5 他の教育活動との関連

<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文は事前に読んでおく ・アンケートをとる 	<p>特別活動 4月「最上級生としての役割」…最上級生として、自己の目標と一年間の見通しをもって生活できるようにすること</p> <p>学校行事 9月運動会・音楽会の取り組み…できるようにになりたいことを全力で</p> <p>10, 11月市内体育祭・市内音楽会の取り組み…自分の力をのびしたい。</p>
<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名「夢」 <p>困難に向かいながら、成長していった「ぼく」が得たものについて考え、話し</p>

	合う活動を通して、目標をもって努力することの尊さへの考えを深め、前向きに努力していこうとすることができるようにする。
事後指導	道徳コーナー「今日の学習からどんなことを学び、これからの生活に生かしていくか」考えを掲示し、意欲につなげていく。 学級活動「もうすぐ中学生」で、中学校に向けて自分自身の目標を設定し、ふりかえりを重ねながら日々の生活の中で努力を重ねていけるようにする。
家庭との連携	道徳の学習で話し合ったことや感想を通信等で紹介していきながら、家庭の団らん的话题にさせていただく。

6 板書計画



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ぼくがたどり着いた思いについてさまざまな視点から考えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・夢や目標をもち、困難があってもくじけずに努力していくことのよさを知り、前向きに努力しようとする視点で考えている。